まち協の区内情報紙
いま・はま
第20号
発行　令和4年1月1日
浜益観光まちづくり推進協議会
（事務局）　79・2029

モニタープログラム
雪板ペイント＆試乗体験

「冬も楽しめる浜益」を目指して、昨年から取り組んでいる雪板作りや雪板遊びの幅を広げていきます。
今回はお試し価格でペイント＆試乗体験を行います。

雪板とは
ベニヤ板を重ね合わせて作る、足を固定しないボード。雪上でサーフィンをするイメージです。専用ブーツや固定具が不要で、気軽に挑戦できるのが魅力のアクティビティ。

と　き	2月13日(日)10：00～
	※悪天候の場合19日(土)に変更
ところ	浜益コミセン
定　員	5名（先着順）
参加費	7,000円（材料費・加工費・保険料含む）
問合せ	まち協事務局　79-2029

浜益ギフトセット

じわじわとご注文いただいてます
ありがとうございます

はまます　いっぺかだれやフットパス
＜冬の巻＞

と　き	1月22日(土)11:00温泉集合
ルート	川下実田線（農道） 荘内藩陣屋跡からスタートし 浜益温泉を目指して歩きます
参加費	1,000円(保険料・温泉券含む)

フットパス＝歩くための小道のこと
景色を楽しみながら歩きましょう！

【背伸びせず持続できる観光まちづくりを】

浜益観光まちづくり推進協議会
会長　渡辺　真奈美

令和3年、相変わらずのコロナ禍によって思うように活動できない状況が続きました。

そんな中、まち協ではギフトセットの開発や秋のバスツアーなど、その時できることを行ってきました。今年の事業をさらに磨きなおし、新シーズンに向けて準備を進めています。

私たちは浜益にある自然や暮らしを活かした「背伸びしない・無理しない観光まちづくり」で人を呼び込みたいと活動しています。ただ、それはまち協だけで成り立つものではありません。

地域があって、人がいて、それぞれが魅力ある物事に取り組んでいる。この土台があってこその活動です。浜益は何も無いように見えて、意外と話題があります。それを地域の人が知らないのは、もったいない。その思いでこの情報紙「いま・はま」を発行し、私たちの活動だけでなく、地域の動きや話題も載せています。

今後は世の中の動向を見ながらではありますが、止まっていた体験観光のプランを少しずつ進めていきます。そして、そのプランを通じて老若男女問わず、浜益に関係する人口を増やしたい想いがあります。そのためには、ただ人が来るのを待つのではなく「積極的なつながりづくり」も必要と考えます。

そんな想いを胸に、新たな1年をより良いものにしていきたいです。今後とも皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

まち協HP
Facebook
まち協通販

地域の宝を知ろう
第２回　荘内藩ハママシケ陣屋跡

川下・八幡神社の奥にある「荘内藩ハママシケ陣屋跡」は、歴史的な遺構を留めているとして昭和６３年に国の指定史跡となりました。
しかし、地元の私たちは、この陣屋跡についてどれだけ知っているでしょうか？
どのような歴史があるのかを知ってもらえるよう、数回に分けて紹介していきます。

＜荘内藩ハママシケ陣屋跡は　ここがすごい＞

詳しい人が見ると、土塁（どるい）や堀など陣屋がつくられた痕跡が今でも明瞭に残っているそうです。
そのため、見学に来た人は「これはすごい！」と感激するのです。興味がある人にはお宝みたいな場所なんですね。

＜荘内藩からたくさんの人が移住してきた＞

荘内藩がハママシケ（浜益）にやってきたのは、ロシアの侵略から北海道を守るためでしたが、ただ警備だけをしていたわけではありません。人を連れてきて田んぼや畑を作り、ここでずっと暮らす人が増えれば、その人たちに警備を任せることができる、そう考えたのです。荘内藩はハママシケに引っ越したい人を大募集しました。

その頃の浜益に、人がまったくいなかったわけではありません。アイヌの人もいれば、漁師もいましたし、商売人もいたのです。ハママシケは魚がたくさんとれる場所だったので、漁業が盛んでしたが、農業はまだまだでした。ですから、草木が生えた荒れ地を畑にする作業や、作物作りに慣れている人を連れてこなければならなかったのです。

そうは言っても、北海道は寒い土地です。引っ越したいと言った人はどれだけいたことでしょう。「寒さで死んでしまった人もいる」という噂も流れていたそうです。

荘内藩は、引っ越してくれるなら食べ物をあげるし旅費も出します、お金もあげますと大サービスをして人を集めました。それでも集まらないときは、大工の〇〇さん、鍛冶屋の〇〇さん、と指名をして強制的に引っ越しさせたこともあるようです。

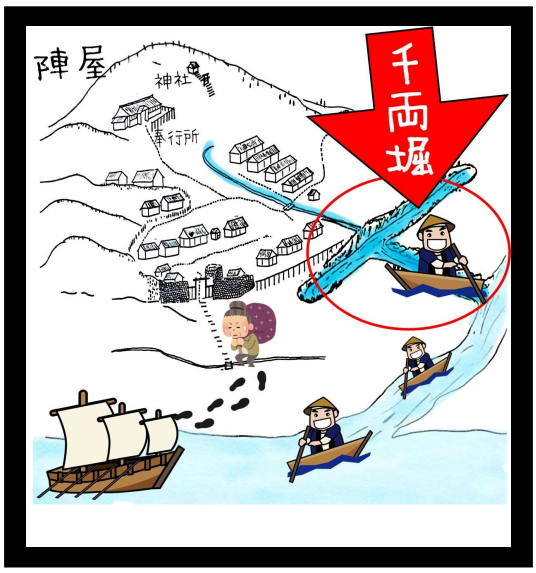
こうしてハママシケには少しずつ村（今でいう地区）が作られていきました。

＜船から荷物を運ぶために作られた千両堀＞

その昔、浜益への荷物は船で運ばれていました。もちろん、荘内藩からの荷物も同じです。しかし、陣屋の場所は海からも川からも離れていますよね。これでは荷物はもちろんのこと、家を建てる材料を運ぶのがとても大変です。

そこで、浜益川から陣屋まで荷物を運びやすくするために、堀（運河）を作りました。陣屋跡から下ったところに今でも跡が残っています。

この堀を作るため、かかったお金は当時で千両という金額でした。お金の価値は時代によって変わりますが、現代で言うと5千万円から1億円くらいです。ものすごいお金をかけて作られたことが分かりますね。このことから、人々は千両堀と呼び、今でも看板が立てられています。



～次回につづく～